

議 長
確認印

経済常任委員会会議録

1 日 時	開会 令和8年5月13日 10:00 閉会 令和8年5月13日 11:18
2 場 所	委員会室
3 出席委員	菊地哲也、堀江祐司、小林達信、青砥與藏、吉村守広、鈴木孝則
4 欠席委員	
5 出席要求者 (説明員)	埜町地域公共交通活性化協議会会長(副町長)、まち振興課長、地域づくり係長
6 職務出席者	議会事務局長、書記
7 付議事件	第1 デマンド交通の状況と今後の取り組みについて
8 議事の経過	<p>堀江祐司副委員長開会</p> <p>第1 デマンド交通の状況と今後の取り組みについて</p> <p>委員長：説明を求める。</p> <p>(副町長のあいさつのあと、まち振興課長が説明員を紹介し、資料に基づき説明)</p> <p>委員長：まち振興課より説明のあった件について、質疑を行う。</p> <p>青砥與藏委員：デマンド交通は過疎地域において不可欠な事業である。今後、事業が拡大した際の町の方針を伺いたい。また、路線バスへの負担金について、廃線を含めた見直しの考えは。</p> <p>課長：路線バスは利用者が減少しており、スクールバス路線以外については廃線も視野に福島交通と協議を進めたい。また、スクールバスを小型車両に変更するとしても経費については、国の補助金等がないため段階的な検討が必要である。</p> <p>副町長：廃線は視野に入れつつも、路線バスとデマンド交通の共存は不可欠である。</p> <p>青砥與藏委員：路線バスの運転手不足等の懸念から、デマンド交通へ移行した場合、県からの支援等は。</p> <p>課長：実証運行の初回以降、県の継続補助はない。</p> <p>吉村守広委員：運転手の人数や安全管理体制、今後の資格取得の見通しを伺う。</p> <p>課長：運転手は4名体制。安全のため大臣認定講習の受講を予定しており、受託者(シルバー人材センター)とも連携している。本格運行時には二種免許が必要となるが、ライドシェア制度を活用すれば一種免許での運用も可能である。</p> <p>青砥與藏委員：遠方の地域の方はタクシー利用券が不足しがちである。デマンド交通を有料化した場合の料金設定は。</p> <p>課長：他自治体を参考に、タクシー初乗り運賃の半額程度が妥当と考えている。有料化すれば費用の一部補填も可能となる。</p> <p>副町長：民業圧迫の懸念もあり、タクシーやバスとの棲み分けを検討しながら、実証実験を通じて利用者ニーズを見極めたい。</p> <p>鈴木孝則委員：生活路線の重要性を鑑み、タクシー利用券やスクールバス路線は縮小せず維持してほしい。実証実験はいつまで継続する予定か。</p>

課長：明確な期限は設けず、路線バスやタクシーの動向を注視しながら複数年かけて実施する。

副委員長：車いす利用者への対応をどう考えているか。

課長：車いす対応については、既存の介護タクシー事業者等との連携で補完したい。

係長：資格のない職員では介助が困難なため、車両乗降時の安全配慮に努めている。

鈴木孝則委員：全てのニーズを一つの交通手段で解決するのは難しい。利用者の選択肢として全体バランスを考慮すべきだ。

小林達信委員：将来的な本格運行を見据え、運転手の確保や有償化への移行が課題である。

鈴木孝則委員：人材確保に向け、他自治体の取り組み（退職者雇用など）を参考にすべきではないか。

課長：参考にさせていただく。

委員長：デマンド交通の町外利用や広域化の可能性は。

課長：当面は町内エリアでの運用だが、本格運行時には停留所設定も含めアンケートでニーズを把握したい。広域化については近隣自治体の動向を注視する。

副町長：町外への移動については、タクシー利用券の活用も検討いただきたい。

委員長：他ないので説明・質疑を終了する。

（説明員退席）

委員長：まとめだが報告書期限について。

事務局長：5月27日（水）でお願いしたい。

委員長：期日厳守でお願いしたい。

堀江祐司副委員長による閉会

埴町議会委員会条例第27条の規定により署名する。

令和 年 月 日

経済常任委員長